

# 石川県立伝統産業工芸館企画展

平成27年2月20日

経営支援課伝統産業振興室

TEL:076-225-1526 (内 4465)

## 「ここから未来へ」

石川県挽物轆轤技術研修所 卒業生作品展

### 取材のお願い

石川県立伝統産業工芸館では、「ここから未来へ」石川県挽物轆轤技術研修所 卒業生作品展を下記の通り行います。全国で唯一「木地挽物」の技術を専門的に学べる石川県挽物轆轤技術研修所から巣立ち、日々技術の研鑽に努めるとともに制作活動に励んでいる地元や全国に散らばる研修所卒業生の意欲作を集めた企画展です。ぜひ取材して頂けますようお願い致します。

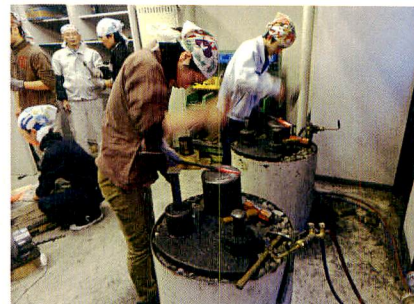
- ◆ **タイトル：** 「ここから未来へ」  
石川県挽物轆轤技術研修所 卒業生作品展
- ◆ **開催趣旨：** 石川県挽物轆轤技術研修所は、日本で唯一の挽物轆轤の技術を専門的に学べる研修施設であるが、木地師の高齢化が進む一方で後継者の育成が思うに任せない状況で、この施設が果たしている役割は大きい。1997年の設立後、73名の卒業生を輩出したこの研修所について広く知ってもらおうとともに、この研修所の卒業生の現在の活動を紹介する事を目的とした企画展である。
- ◆ **企画展紹介：** 全卒業生のおよそ三分の一にあたる20名の作品とそれぞれの制作にかける思いを紹介する。又、研修所や研修生について理解を深めてもらうために、「一目でわかるカリキュラム」や研修生についての様々なデータを提示する。
- ◆ **会期：** 2015年2月23日(月) - 4月5日(日)
- ◆ **会場：** 2F 第4展示室
- ◆ **展示品：** 約70点
- ◆ **出展者(あいうえお順)：** 井筒佳幸、任性珍、岩本匡史、大石祐子、大藏豊彦、奥の麻衣子、木下富雄、佐藤勇士、佐竹巧成、生地史子、高月国光、玉井智昭、蝶野秀紀、辻正堯、名古屋英介、蜂谷友季子、濱田幸介、本間健司、松本由衣、山田真子(各出展者のプロフィールは末尾の資料参照)



椀の内側を挽く



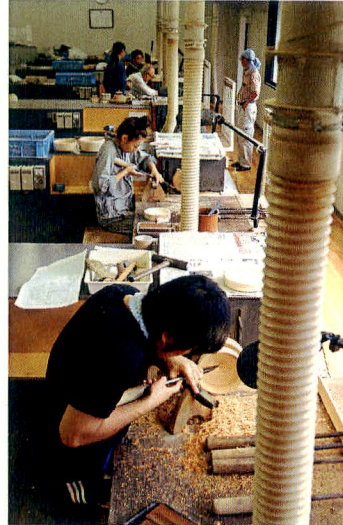
川北所長との語らい



すべての刃物は自作



椀の外側を挽く



夏の轆轤室

問合せ及び取材申し込み先：

石川県立伝統産業工芸館 <http://www.ishikawa-densankan.jp/>

TEL： 076-262-2020

指定管理者ナカダ・クラフトプロジェクト

プログラム担当： 館長代理 柳井 篤子

携帯 090-3470-2469 E-mail： [707@nkdinc.co.jp](mailto:707@nkdinc.co.jp)

<出展者プロフィールとコメント> (順不同)

**井筒佳幸 (IZUTSU Yoshiyuki)**

1975年 神奈川県生まれ

2000年 東北芸術工科大学大学院 修了

2006年 石川県挽物轆轤技術研修所 卒業

八百津町にてふたば工房をひらき、今年で10年目を迎える。

<受賞歴>

2003年 高岡クラフト入選(以降04, 05, 06, 09入選)

2004年 日本クラフト入選(以降06入選)

2006年 朝日現代クラフト入選

コメント： だれでも買えるモノ。いつも手にとれるモノ。毎日の食卓に使える「ウツワ」をつくりたいと考えております

**奥の麻衣子 (OKUNO Maiko)**

1976年 大阪生まれ

2002年 日本伝統工芸会正会員故宮本常吉氏に師事

2004年 石川県山中漆器産業技術センター石川県挽物轆轤技術研修所卒業

2005年 金沢市湯涌に自宅工房を開設

現在 自然あふれる里山で、同業の夫と二人のこども、黒い犬と暮らしながら制作をしています。

<主な個展・グループ展>

2007~2014年 個展 (芦屋 「うつわクウ」)

2014年 二人展 (麻布十番「ギャラリーMONA」)

2015年6月 個展 (青山「うつわ一客」)

コメント： 見て、使って、嬉しく楽しくなるうつわづくりを目指しています！ 手に取ってくださった方が幸せになりますように☆。

**岩本 匡史 (IWAMOTO Tadashi)**

1977年 金沢市生まれ

2000年 横浜国立大学経営学部経営学科卒業

2007年 水上隆志氏に師事

2008年 石川県挽物轆轤技術研修所専門コース卒業

現在、家業である桐工芸の岩本清商店に従事。

コメント： 金沢の伝統工芸である桐工芸は火鉢から始まった工芸でして、その原点である火鉢を作り続けていきたいと思っています。この焼桐拭漆小火鉢は、桐の木で作った小ぶりの火鉢です。桐の表面を焼くことで、木目が浮き上がったように強調され、また、筋をつけることでその木目が波打ったように見えます。焼いた桐の温かみのある木肌と、木目の美しさ、軽さ、手触りの良さをお楽しみください。

**玉井智昭 (TAMAI Tomoaki)**

1971年 埼玉県生まれ

1993年 拓殖大学工学部工業デザイン学科卒業

2003年 石川県立山中漆器産業技術センター 石川県挽物轆轤技術研修所卒業

現在、実家に工房を開業し、主に木地の注文製作を行っている。

<受賞歴>

2008年 第55回日本伝統工芸展 日本工芸会奨励賞 (第51, 56, 57, 58, 59, 60 入選)

2014年 第54回東日本伝統工芸展 三越伊勢丹賞 (第44, 46, 47, 49, 52, 53 入選)

現在、公益社団法人 日本工芸会正会員

<主な個展・グループ展>

2012年 玉井智昭 木工芸展 (栃木県栃木市 ぎやらりいぜん)

コメント： 私は作品を手掛けるうえで、一番大切にしていることがあります。それは、デザインと木目の調和です。デザインを重要視する場合は、控えめな木目の材料を使用したり、逆に木目を生かす場合は、それを阻害しないデザインにしたりと……。また、挽物の作品は、木目を仕上げるまで、そのほとんどが鉋屑になってしまい、とても贅沢な材料の使い方になってしまいます。自然の恵である、材料かつ漆に対する感謝の気持ちを決して忘れることなく、これからも作品制作に精進して参りたいと思っています。

**高月 国光 (TAKATSUKI Kunimitsu)**

1976年 岡山県生まれ

1998年 帝京大学法学部法律学科卒業

2003年 石川県挽物轆轤技術研修所修了

現在 「郷原漆器の館」館長

<受賞歴>

2001年 兼六園大茶会第7回工芸作品公募展 石川県知事賞

2007年 日本工芸会中国支部50周年記念展 50周年記念特別賞

2008年 福武文化奨励賞受賞

2009年 第12回伝統工芸木竹展 朝日新聞賞

コメント： 木に学び、人に学び、日々精進しています。

**佐藤 勇士 (SATO Yuji)**

1983年 大阪府生まれ

2006年 宝塚造形芸術大学 (現・宝塚大学) 造形学部産業デザイン学科ビジュアルデザイン&アドバタイジングコース卒業

2012年 石川県挽物轆轤技術研修所 専門コース 卒業

現在 加賀市山中温泉にて木地師として活動をしております。

<受賞歴>

2011年 第19回漆の美展 入選

2012年 第68回現代美術展 入選

2014年 「純米酒やましる」を飲む器コンペ 入賞

コメント： いつも作品を制作する時、中に入れるもの、盛られるもの、注がれるものがより良く見えるように、おいしくなるようにと願いながら作らせていただいております。「夜夜中」月明かりがふうーっとさす静かな夜を器に込めました。「黒い貝殻」昔の人は貝殻でお酒を飲んだときき、もし綺麗な貝があったらそれで飲みたいな との思いから出来上がりました。「歯車」はたおり機の歯車 (木製) を見てこれを箱にしてみても、との思いから仕上げました。

## 松本 由衣 (MATSUMOTO Yui)

1976年 東京都生まれ  
2002年 東京藝術大学大学院漆芸専修 修了  
2014年 石川県挽物轆轤技術研修所基礎コース 修了  
現在 沖縄県工芸振興センター勤務 沖縄県にて創作

### <受賞歴>

2000年 サロン・ド・プランタン賞  
2008年 伊丹国際クラフト展 大賞  
2011年 第51回日本クラフト展 大賞  
2012年 国際漆展・石川2012 銀賞  
2014年 第7回雪のデザイン賞 奨励賞

### <主な個展・グループ展>

個展「暮らす うるし」(2008、2010、2011、2012) 東京、沖縄、神奈川

2014年 日本ミャンマー漆芸交流展 (ミャンマー漆芸工科大学)

2015年 うつわとオブジェ展 (日本橋高島屋)

2015年 琉球漆芸展 (那覇市伝統工芸館)

コメント： 人と人、モノと人、それらを繋ぐところに私の想う工芸は存在しています。木の持つチカラ、漆の美しさに一喜一憂しながら、素材×自分から生まれる形が誰かの心に響くことを願って創作しています。

## 生地 史子 (SYOUJI Fumiko)

2006 静岡大学情報学部卒業  
2010 石川県挽物轆轤技術研修所卒業  
2008～2011 伝統工芸士 佐竹一夫氏に師事  
2011 石川県小松市にて独立、以降作品制作や木地制作を行っている。

### <受賞歴>

2008年 高岡クラフトコンペ 入選 以降2回入選  
2008年 金津創作の森 酒の器展 入選  
2009年 石川の伝統工芸展 入選 以降1回入選  
2009年 兼六園大茶会 入選 以降1回入選  
2014年 公益財団法人石川県デザインセンター理事長賞 受賞

### <グループ展>

2010年 京都 ギャラリーH20 ”お酒の器 遊びの器”  
2012年 石川 ギャラリー萩 ”woman artist file”  
2012年 石川 ギャラリーisola ”Finland Christmas”  
2013年 石川 ギャラリーisola ”Finland Christmas”  
2014年 神奈川 伊勢丹相模原店 ”私のお気に入り my favorite things from Kaga”  
2014年 石川 NEUTRAL ”from three works”  
2014年 岩手 仙台三越 two women's ”wood & me”  
2014年 東京 伊勢丹新宿店 初夏を楽しむ 異素材3人展  
2014年 東京 暮らしの店 黄魚 ”FUZOROI EXHIBITION”

コメント： 人に優しさやぬくもりを感じさせる、木という素材。その木を使って、理想の空間や暮らしを実現することのお役に立てたらいいなと思います。

## 任 性珍 (IM Sungjin)

1974年 韓国忠清南道生まれ

1999年 韓国韓南大学造形芸術学部応用美術科木漆工藝専攻 卒業

2004年 石川県立挽物轆轤技術研修所卒業

現在、群馬県安中市において工房世二を開設し作品製作を行っている。

<受賞歴>

2006年～ 日本伝統工芸展 入選

現在、日本工芸会正会員。

<主な個展・グループ展>

2009～毎年「任性珍 大石祐子 木と漆の器展」群馬・前橋市 ギャラリーアイズ

2009～毎年「任性珍 大石祐子 木と漆の器展」長野・軽井沢 ギャラリー蔵

2010・12年 「任性珍 木漆工芸展」 群馬・高崎高島屋アートギャラリー

2012～毎年「木の家具展」東京・八重洲 田中八重洲画廊

その他関東を中心に展示会を開催。

コメント： 木と漆がもっている自然の魅力と自分の形をどういう風に調和させるか日々悩みながら製作しております。漆と木目の美しさを損なわず、自分の感性が込められた器づくりができれば幸いです。

## 大石祐子 (OHISHI Yuko)

1972年 神奈川県川崎市生まれ

1996年 東京大学工学部都市工学科卒業

2004年 石川県立挽物轆轤技術研修所卒業

現在 群馬県安中市において工房世二を夫任性珍と開設し作品製作を行っている。

<主な個展・グループ展>

2006年 任性珍大石祐子 木漆工芸展 群馬 前橋 ノイエス朝日

2009～毎年「任性珍 大石祐子 木と漆の器展」群馬・前橋市 ギャラリーアイズ

2009～毎年「任性珍 大石祐子 木と漆の器展」長野・軽井沢 ギャラリー蔵

2012～毎年「木の家具展」東京・八重洲 田中八重洲画廊

その他関東を中心に展示会を開催。

コメント： 木はなぜだか人の心を温かく優しくする力をもっています。日々の生活に木を取り入れて、木の温かみを感じ、温かい気持ちになってもらえたらと思っております。木が好き、器が好きなので自分が使いたいと思う器を中心に作っております。長く愛着をもって使って頂けるよう丁寧に作り、またメンテナンスも行っております。この“くまボウル”は絵本に出てくる‘森のくまさん’が飲むスープボウルをイメージして作りました。

## 大藏豊彦 (OOKURA Toyohiko)

1956年 長野県木曾郡南木曾町生まれ

1965年 新潟県直江津市(現 上越市)に移り住む

1973年 新潟県立高田工業高校電気科中退

1976年 新潟県立直江津高校定時制卒業

1999年 石川県挽物轆轤技術研修所専門コース卒業

現在は新潟県上越市の自宅工房にて、オーダーメイドの器、また日常に使う木の器を販売しています。一貫制作をモットーに挽いた木地拭き漆、溜塗り、朱塗り、黒塗り等を施しています。

### <受賞歴>

- 2005年 伝統工芸新作展 「東日本支部賞」受賞  
2008年 第三回新潟県伝統工芸作家展（雪梁舎美術館）大賞受賞  
2014年 第九回新潟県伝統工芸作家展（雪梁舎美術館）正会員優賞受賞

### <主な個展・グループ>

- 2010年 陶・硝子・木 4人展（佐渡博物館）  
2013年 アートギャラリー万代島（新潟市）個展  
2014年 アートサロン遊心堂（上越市）個展  
2014年 新潟三越 個展

コメント： 神代櫨拭漆盛器・・・新潟県北、阿賀野川の川床の地中より掘り出された神代櫨の巨木から作った作品です。美しい柾目、濃淡の表情、圧倒的な素材の存在感を表したく思いました。素直な奇を衒わない形態を心掛けました。

銀杏箔貼拭漆盛器・・・銀杏は木目のおとなしい木です。また柔らかい樹種の一つです。そのため生漆の吸込みも大きく濃淡の出やすい木です。その美しさは格別であるとおもいます。このたびは金箔をはり、描き落としにして表情の面白さをねらってみました。

### 蝶野秀紀 (CHONO Hideki)

- 1971年 京都に生まれる  
1997年 広島大学大学院理学研究科卒業  
2005年 石川県挽物轆轤技術研修所卒業  
現在、木漆作家として広島市内の工房で個展やグループ展を中心に活動

### <主な個展>

- 2007年 京都「ぎゃらい 千づ」にて初個展  
2007年 広島 「サーブ倶楽部」にて個展  
2014年 岡山 「カフェドグラス」にて個展  
2014年 佐賀 「松永陶苑」にて個展

コメント： 「美しい」ことよりも「使ってみたい」と思わず手に取って見たくなるようなうつわを目指し、素材の持ち味を生かす拭き漆仕上げを中心にて製作しています。どうか実際に手に取ってそれを感じ取って頂ければ幸いです。

### 辻 正堯 (TSUJI Masataka)

- 1982年 石川県輪島市生まれ  
2001年 石川県立輪島実業学校(現輪島高校)機械科卒業  
2004年 石川県挽物轆轤技術研修所卒業

### <グループ展>

- 2012年 名古屋栄三越「酒と杯展～ネクストジェネレーション～」に出展  
2013年9月 東京恵比寿ギャラリー「空箱」にて「掌の宇宙」展に参加  
現在、実家である辻椀木地木工芸で従事しつつ自身の創作活動も行っている。

コメント： 櫨造拭漆盛器は綺麗な柾目の木目を見て欲しいです。この木をどのような形にしたら一番活かせるのだろうと考えた結果、外側にアクセントを入れる為に筋を入れ極力シンプルな形となりました。

## 蜂谷友季子 (HACHIYA Yukiko)

1978年 山形市に生まれる  
2000年 東北芸術工科大学卒業  
2002年 石川県立挽物轆轤技術研修所卒業  
現在、山形市にて活動中

### <受賞歴>

2002年 第49回日本伝統工芸展入選 (挽物で女性初の入選)  
2004年 第51回日本伝統工芸展入選  
2005年 第10回日本伝統工芸木竹部会展入選  
日本工芸会東日本支部 第46回伝統工芸新作展入選 (第47回も)  
2007年 第54回日本伝統工芸展入選

### <主な個展・グループ展>

2005年 「山形から発信する12人」展 (十字屋山形店 08、09年も)  
2007年 「渡邊榮・本間潔・蜂谷友季子 木工芸展」(仙台三越)  
2010年 山形市平清水出身の女性2人による「hirashimi s」展  
2012年 CCJクラフトセンタージャパン出展 (東京・自由学園)

コメント： 私の作品は器のものばかりでしたが、器以外で漆なのに漆らしくない、面白いものを作りたいと思いキノコのオブジェを製作しました。どう色を変えてもドクキノコにしか見えない所が、自身でも面白く感じました。猪口は枋の材でも大変硬く、普通なら使わない部分をあえて使い、それを拭漆で仕上げると立体的で面白い枋の壺が浮き上がります。漆ならではの仕上がりです。

## 本間健司 (HONMA Kenji)

1974 本間幸夫の次男として東京で生まれる  
1977 石川県山中町にて辻英芳に木工轆轤を師事  
2000 石川県挽物轆轤技術研修所卒業  
漆芸荻房にはいり茨城県常陸大宮市の荻房奥久慈工房にて勤務。漆掻き、木工轆轤を担当  
2008 岩手県浄法寺にて漆掻き技術保存会の長期研修に参加、佐藤春雄に師事  
現在、奥久慈漆生産組合員・壺木呂の会顧問

### <主な個展・グループ展>

2014 「本間幸夫・本間重隆・本間健司 荻房の漆展」 (銀座三越)  
コメント： 漆芸荻房の一員として、漆掻き、木地挽き、塗りの全行程をとうして作品を作っております。

## 名古屋 英介 (NAKOJI Eisuke)

1976 愛知県生まれ  
1999 早稲田大学 商学部 卒  
2003 - 2005 森林たくみ塾  
2008 - 2010 石川県挽物轆轤技術研修所  
2010年に自工房を設立以降、各地のギャラリーやうつわ店、デパート等で作品発表を行っています



<受賞歴>

2009 工芸都市高岡クラフトコンペティション 入選

2010 日本クラフト展 入選

2012 テーブルウェア・フェスティバル 審査員特別賞

コメント： 古典の整った造形や様式に学びながらも、自らのつくる楽しさを大切に考えて日々制作しています。目にし手にとってくださる方にもその楽しさを感じていただけたら嬉しく思います。

**木下富雄 (KINOSHITA Tomio)**

愛知県名古屋市出身。

2004年 石川県立山中漆器産業センターに入所、木工ロクロ、漆を学ぶ。

現在、加賀市山中温泉にて木地、および作品制作をおこなっている。

<受賞歴>

2006年 金沢城・兼六園大茶会展入選

2007年 日本伝統工芸石川支部展入選

2008年 高岡クラフト展特別賞受賞

2010年 「サッポロビアマグランカイ8」入選

2014年 高岡クラフト展入選

<主な個展・グループ展>

2009年 「秋のコレクション」 加賀市ギャラリー萩

2012年 「金沢からお正月」 松屋銀座

2013年 「加賀の轆轤・能登の漆二人展」 名古屋薔薇館

2014年 「生活工芸・金沢」 代官山 T-SETE ガーデンギャラリー

「木下富雄 ろくろとうるし」 名古屋三越星ヶ丘

コメント： 漆を楽しく身近なものに感じていただきたい。自分が楽しいと思えるものをつくっています。水玉ボウルは裏表のコントラストを一緒に楽しみたい。椅子はおしりできかに漆を感じてみたらどうだろうと思って制作しました。

**濱田幸介 (HAMADA Kousuke)**

1985 島根県生まれ

2005 私立松江西高等学校卒業

2008 石川県挽物轆轤研修所卒業

現在、島根工芸連盟理事、日本工芸会正会員。島根県に工房を構え、作品制作を行っている。

<受賞歴>

2007 島根県総合美術展（県展） 島根工芸連盟賞

2008 日本伝統工芸展 初出品初入選（以後6回）

島根県総合美術展（県展）金賞

2009 島根県総合美術展（県展）銀賞

2010 国民文化祭・岡山 2010 美術展 奨励賞

2011 島根県総合美術展（県展）銀賞

<主な個展>

2011 「濱田幸介 木工展」(一畑百貨店美術サロン / 島根県)

2013 「濱田幸介 木工展」(一畑百貨店美術サロン / 島根県)

コメント： 木は、私達より長く生きています。その木を見て、木目を見て、このような形を作るといいのではないかと思いつくりました。そばに置いて下さる方が心豊かになれる作品作りを心掛けています。